

2022年10月31日

2023年3月期上期 決算説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

23.3上期 決算レビュー

◇ 外部環境①	4
◇ 外部環境②	5
◇ 23.3上期 連結経営成績	6
◇ 特別損失について	7
◇ 営業利益の増減要因	8
◇ 畜産飼料の販売状況	9
◇ 差別化飼料比率及び環境に配慮した飼料の 販売状況	10
◇ 原料ポジションの状況	11
◇ 基金負担金及びエネルギー価格の状況	12
◇ 水産飼料の実績	13
◇ その他セグメントの実績	14
◇ 連結財政状態	15

通期見通し

◇ 通期計画の修正	17
◇ 通期計画と下期の見通し	18
◇ 基本戦略の進捗状況	19
◇ 飼料セグメントの規模拡大と収益力向上に向けた 施策	20
◇ その他セグメントの事業成長の加速	21
◇ 成長する収益基盤を支えるサステナビリティ経営の 推進	22
◇ 株主還元	23

参考資料

◇ ESGの取組み	25
◇ 用語集	26

23.3上期 決算レビュー

外部環境①

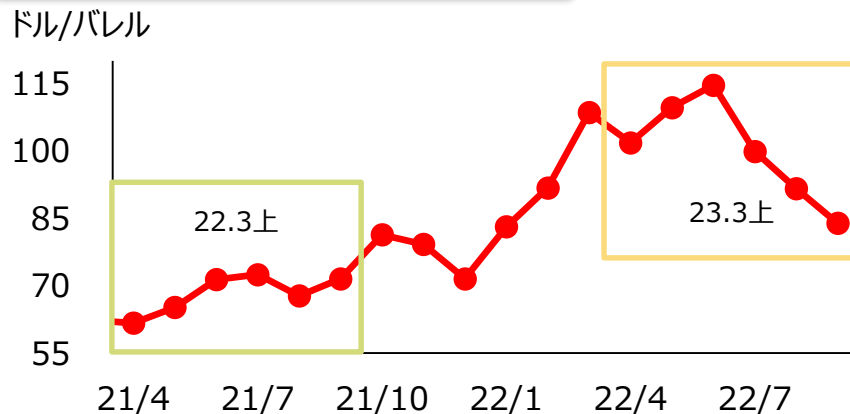
とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



- ◇ とうもろこし
 - 21年9月から右肩上がりで上昇
 - 22年7月に下落したものの、直近は反発
- ◇ 為替
 - 22年3月より急激かつ大幅な円安が進行

仕入コストが増加

原油価格の推移



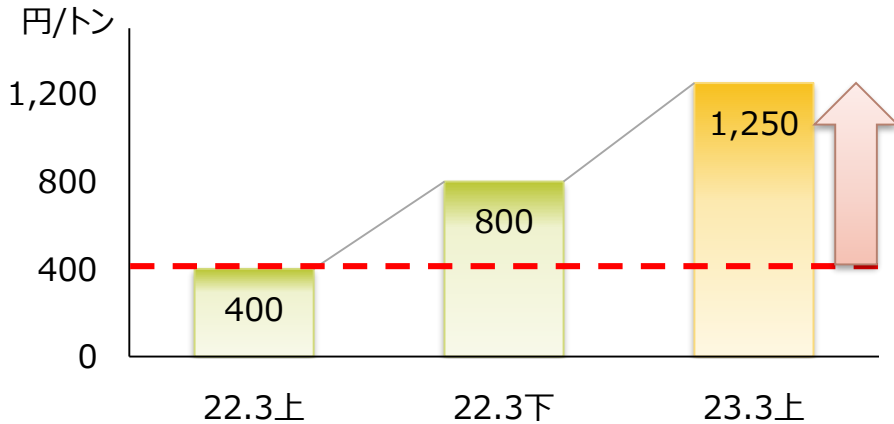
- ◇ 21年4月以降、ほぼ右肩上がりで推移
- ◇ 直近は下落傾向にあるが、依然として高値水準

製造コスト等が増加

※「World Bank」によるWTI原油先物

外部環境②

基金負担金単価の推移

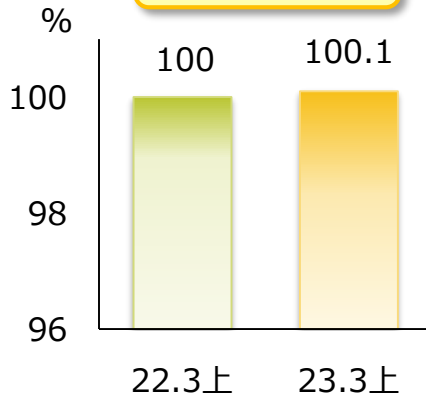


- ◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから積立金単価は右肩上がり
- ◇ 23.3上期は850円/トンの負担増加

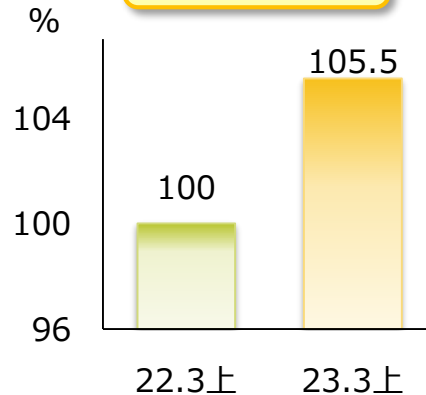
販管費が増加

飼料の市場流通量

畜産飼料



水産飼料



- ◇ 畜産飼料は採卵鶏用飼料と肉牛用飼料が伸びたことにより微増
- ◇ 水産飼料は値上げを見据えた製品引き取りが活発化し、大幅に増加

市場は堅調に推移

※1. 畜産飼料は4-8月の市場流通量比較（前期比）
 ※2. 水産飼料は日本養魚協会の属するメーカーの合計

23.3上期 連結経営成績

(単位：百万円)

	22.3上期	23.3上期	増 減
売上高	95,614	115,821	20,206
飼料	90,148	109,400	19,251
その他※1	5,466	6,420	954
営業利益	3,006	1,153	△ 1,853
経常利益	3,217	1,394	△ 1,823
セグメント利益※2	3,214	353	△ 2,860
飼料	3,216	72	△ 3,144
その他※1	303	444	140
調整額※3	△ 305	△ 162	143
四半期純利益	2,249	272	△ 1,977
設備投資額	1,190	1,840	649
減価償却費	1,501	1,444	△ 56

売上高

◇ 畜産飼料の販売価格上昇と
販売量増加により増収

営業利益

◇ 大幅な減益
詳細は8ページ以降で説明

セグメント利益

◇ 利益率の低下・販管費の増加・
貸倒引当金繰入額（特損）の
計上により減益
詳細は7ページ以降で説明

◇ 大幅な増益
詳細は14ページで説明

◇ 受取配当金の増加と、全社
費用の減少により改善

※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

2.セグメント利益：税金等調整前四半期純利益

3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

◇ 9月9日、神明畜産(株)、(株)肉の神明及び共栄畜産(有)が
民事再生手続開始の申立てを申請

- 直近まで収益改善を果たしている一方、
余裕をもった手元資金の確保までは至らず
- 7月に神明畜産(株)の養豚場で豚熱が発生し、
急速に資金繰りが悪化

◇ 負債総額 (9月1日時点、概数)

- ・ 神明畜産(株) 294億円
- ・ (株)肉の神明 208億円
- ・ 共栄畜産(有) 72億円

当社公表情報

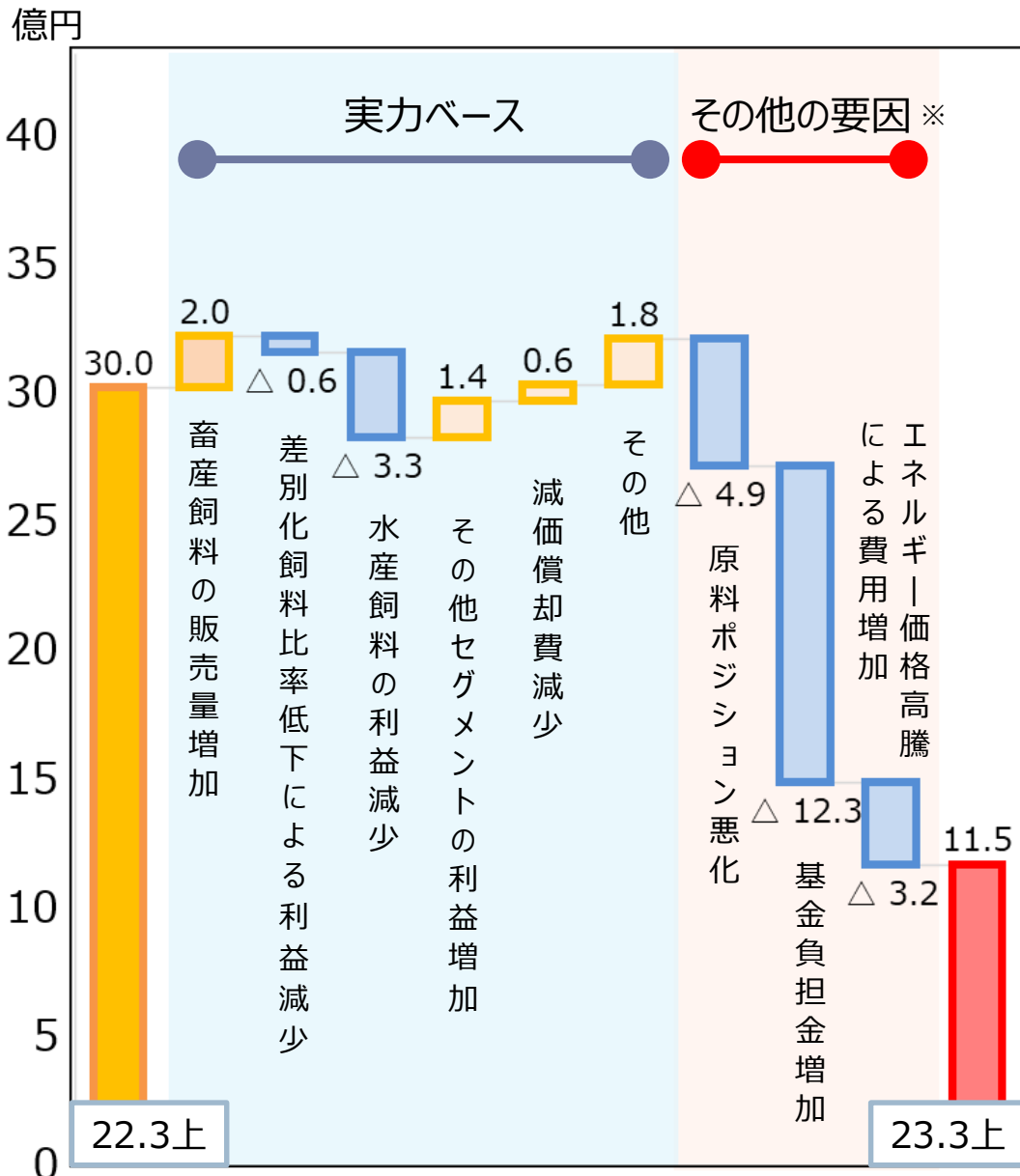
◇ (株)肉の神明に対する債権額

- ・ 売掛債権 171百万円
- ・ 手形債権 1,025百万円
- ・ 貸付金 300百万円
- ・ 合計 1,496百万円

(22.3期連結純資産に対する割合2.4%)

◇ 23.3上期末において左記債権のうち
担保で保全されていない部分について
引当処理

⇒ 特別損失 (貸倒引当金繰入額)
1,040百万円計上



実力ベースの増減

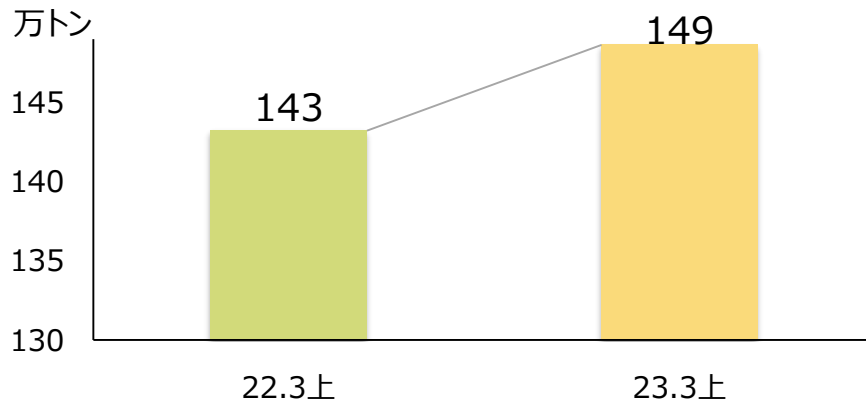
- ◇ 畜産飼料の販売量増加 **+ 2.0億円**
- ◇ 差別化飼料比率低下による利益減少 **△ 0.6億円**
- ◇ 水産飼料の利益減少 **△ 3.3億円**
- ◇ その他セグメントの利益増加 **+ 1.4億円**

その他の要因の増減

- ◇ 原料ポジション悪化 **△ 4.9億円**
- ◇ 基金負担金増加 **△ 12.3億円**
- ◇ エネルギー価格高騰による費用増加 **△ 3.2億円**

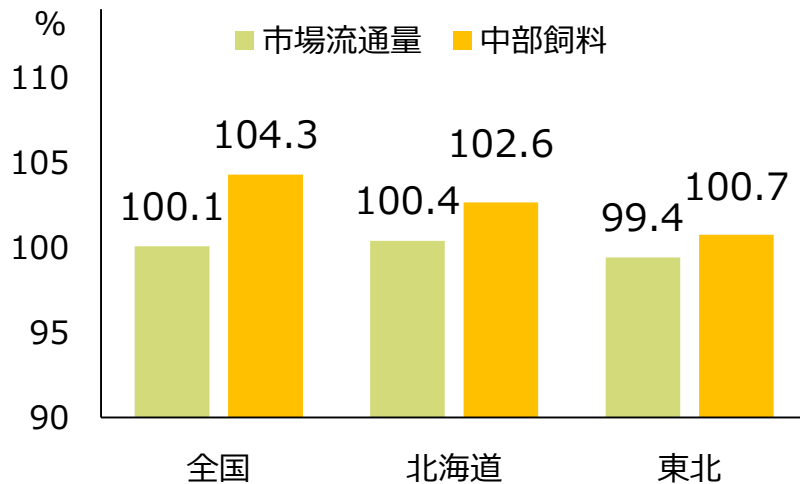
畜産飼料の販売状況

㊤ 畜産飼料販売量



- ◇ 前年同期を大きく上回る (3.8%増加)
- 全畜種で前年同期を上回り、特に採卵鶏用飼料及びブロイラー用飼料がけん引
- 地域では西日本エリアでの拡販がけん引

市場流通量及び㊤販売量 前年比



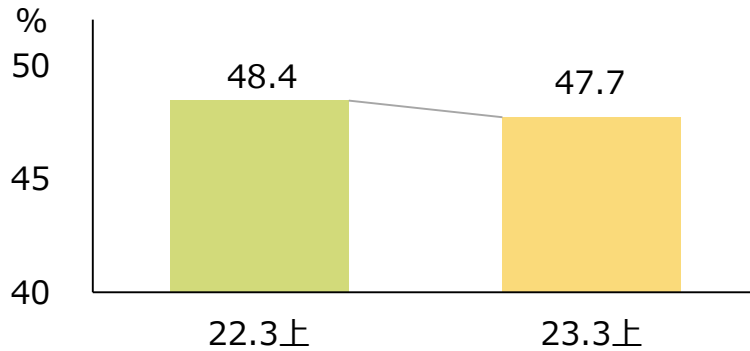
- ◇ 全国の市場流通量が前年横ばいの中で、大きく伸ばすことに成功
- ◇ 北海道では養豚用飼料の伸びがけん引し市場が横ばいの中、前年を超過
- ◇ 東北では養牛用飼料とブロイラー用飼料が伸びたことにより、市場が前年を下回る中、前年を超過

※ 農林水産省 飼料月報 4-8月の数量による比較

利益が2.0億円増加

差別化飼料比率及び環境に配慮した飼料の販売状況

差別化飼料の売上高構成比

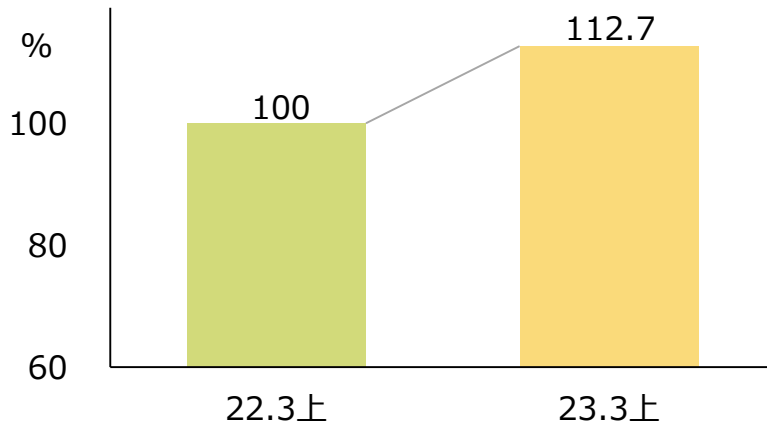


- ◇ 前年同期を下回る (0.7ポイント減少)
- 飼料価格の高騰により価格志向が高まり差別化飼料の価値訴求が出来ず、汎用化が進展

利益が0.6億円減少

環境に配慮した飼料

<代表例：KDシリーズの推移>

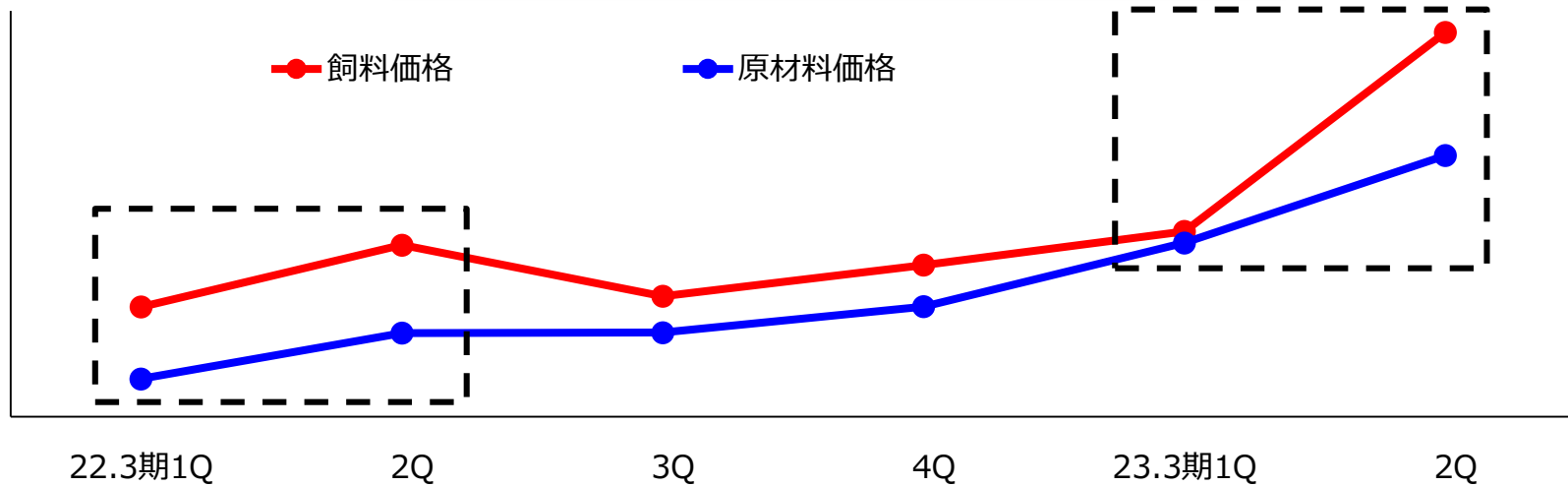


※ 22.3上期の販売量を100とした指数

- ◇ 採卵鶏用飼料『KDシリーズ』
 - 鶏糞の量を約20%削減 (当社汎用品比)
 - 産卵率の改善効果あり
 - 個々のお客様に合わせた配合設計
- ◇ 2018年に本格発売以降、お客様より高評価を獲得
- ◇ 既に当社の主力製品となり、直近でも拡販に成功

販売量の増加に寄与

㊤ 配合飼料価格と原材料価格の推移



原料ポジションとは

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- ◇ 配合飼料価格は四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と配合飼料価格の変動幅にギャップが発生
⇒ 原料ポジションが改善・悪化

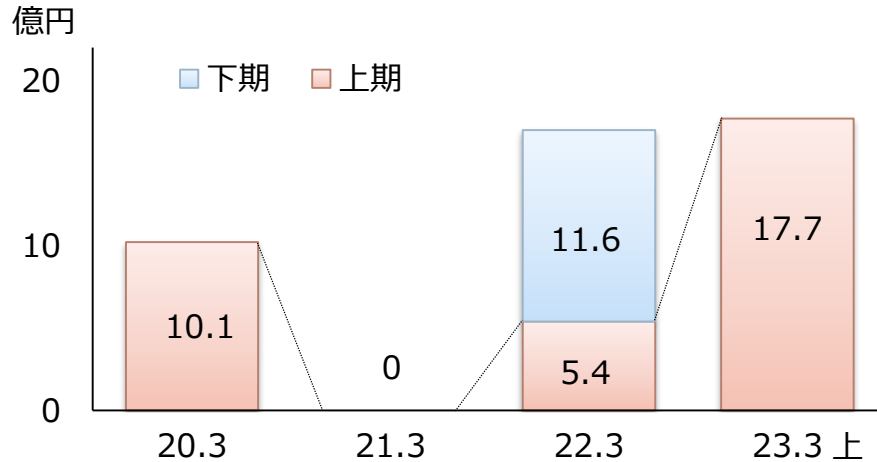
23.3上期の原料ポジション

- ◇ 前年同期比で大幅に悪化
 - 特に1Qでは原材料価格の上昇幅を飼料価格の値上げ幅が下回り、大きく悪化

利益が4.9億円減少

基金負担金及びエネルギー価格の状況

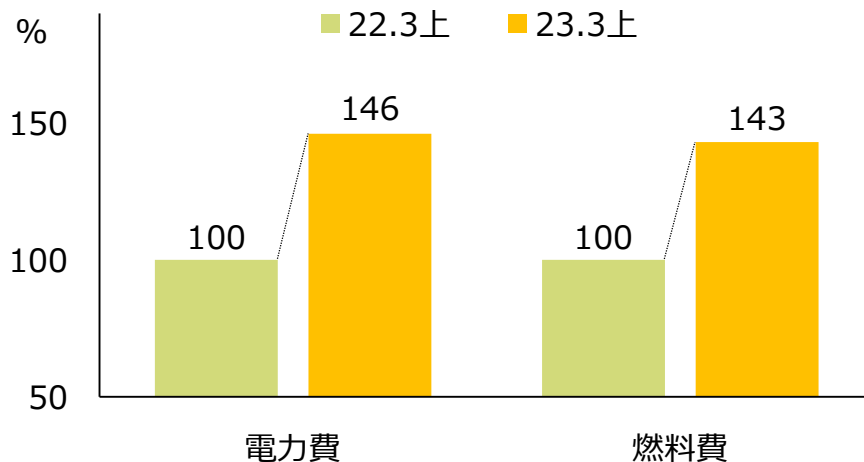
㊤基金負担金の推移



◇ 近年補てん金の発動が減少し、潤沢な財源が確保されていたが高額な補てん金が連続で発動したため23.3上期の積立金単価が上昇

12.3億円の費用増加

㊤電力費及び燃料費 価格単価の推移

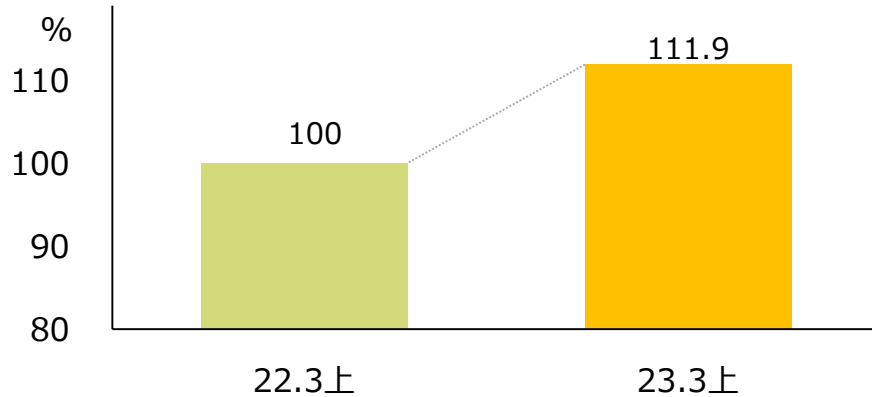


◇ 石炭及びLNG等の輸入価格及び原油価格が高騰したことにより、電力費及び燃料費の単価が大幅に上昇

3.2億円の費用増加

水産飼料の実績

㊤水産飼料販売量



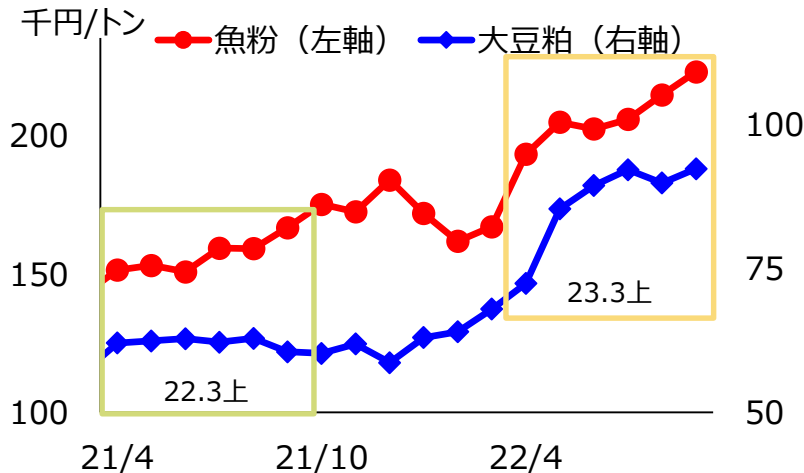
※ 22.3上期の販売量を100とした指数

◇ 前年同期を大きく上回る

○ 値上げを見据えて、養殖業者による値上げ前の製品引き取りが活発

※ 水産飼料は定期的な価格改定はないが原料高騰を受け、各社値上げを実施

魚粉及び大豆粕価格の推移



※ 財務省 貿易統計

◇ 主原料である魚粉及び魚粉の代替原料で利用する大豆粕の価格が高騰し、利益率が低下

○ 競争激化により上期中の価格転嫁が進まず

利益が3.3億円減少

その他セグメントの実績

セグメント利益

主な増加要因

鶏卵販売

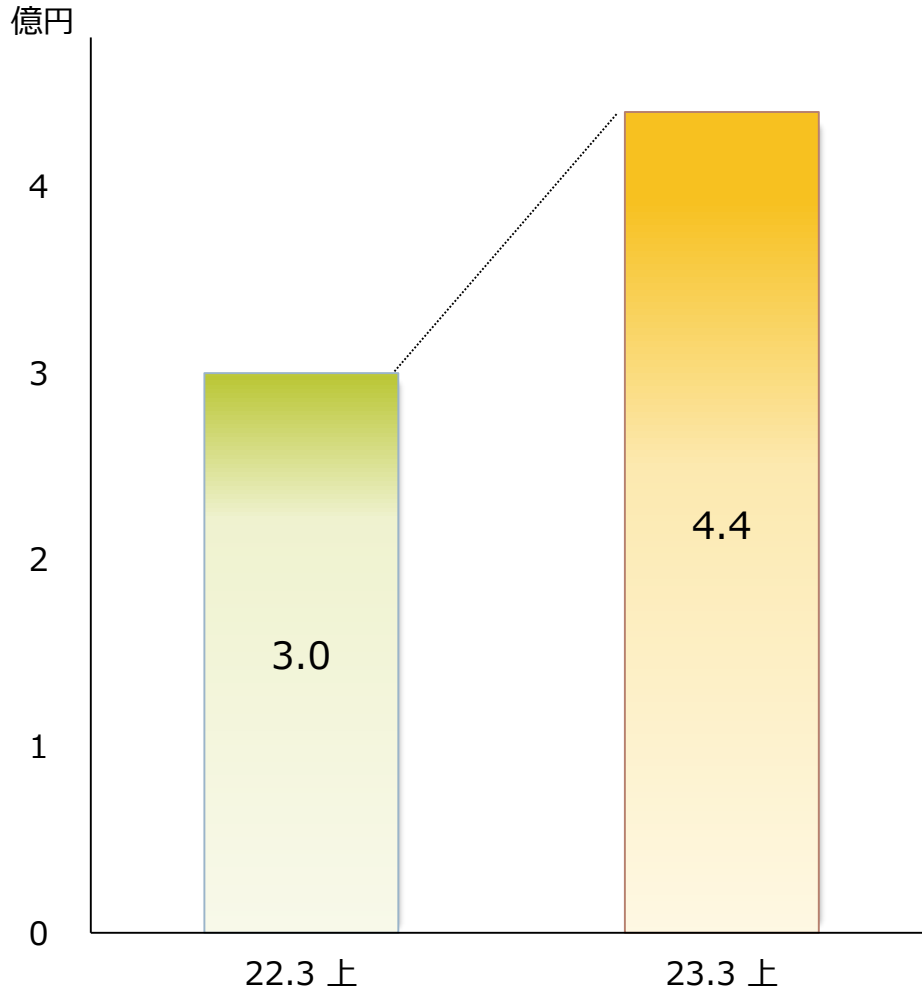
- ◇ 外食・業務用が伸び悩むも量販店向けは一定量を維持し、販売量は前年同期を上回る

肥料

- ◇ 環境負荷の少ない緩効性配合肥料の拡販等により前年同期を上回る

畜産用機器

- ◇ 販売台数は前年同期を若干上回る
- ◇ 機器メンテナンス案件も増加



※ その他セグメント: 鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

利益が1.4億円増加

23.3上期 要約連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	655	(+79)	負債	348	(+89)
現預金	18	(△29)	仕入債務	184	(+38)
売上債権	443	(+79)	有利子負債	102	(+60)
たな卸資産	164	(+33)			
			純資産	614	(△6)
流動比率	218.8%	(△48.7pt)	株主資本	598	(△4)
			その他包括利益	14	(△2)
固定資産	307	(+3)	非支配株主持分	2	(+0)
有形	245	(+4)			
無形	5	(△0)	自己資本比率	63.6%	(△6.8pt)
投資その他	56	(△0)			
総資産	963	(+82)	負債・純資産	963	(+82)

※ () 内の数値は、22.3期末との比較

通期見通し

(単位：百万円)

	22.3 実績	23.3 当初計画 (5/9発表)	23.3 修正計画 (10/31発表)	増減
売上高	193,392	212,000	212,000	—
営業利益	4,138	2,200	2,200	—
経常利益	4,564	2,600	2,600	—
当期純利益	3,211	1,800	1,100	△ 700

- ◇ 当期純利益が当初計画から△700百万円減少し、1,100百万円を見込む
- ◇ 第2四半期に特別損失（貸倒引当金繰入額）1,040百万円を計上
- ◇ 売上高、営業利益、経常利益は修正しない

項目	㊦ 23.3期想定 (5/9公表)	上期の振り返り	下期の見通し
原料 ポジション	22.3期の水準で算出 1Qは悪化し、2Q以降は 改善する	想定どおり	上期並みに推移する
電力費・ 燃料費	22年4月～6月の見込み で算出	燃料費は想定どおりも 電力費は想定より悪化	上期並みに推移する
基金負担金	積立金単価1,250円/t	想定どおり	想定どおり
畜産飼料の 販売量	前期比101.5%	前期比103.8%	上期より若干下回るも 通期計画を達成する
水産飼料の 販売量	前期比102.0%	前期比111.9%	値上げの影響により 伸び悩む

基本戦略	進捗状況
<p>飼料セグメントの規模拡大と 収益力向上（畜産飼料・水産飼料）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 畜産飼料の販売量は好調 しかし、差別化飼料の拡販には苦戦 ◇ 水産飼料は値上げ前の取り込みにより 販売量好調も、原材料費が高止まりし 利益率は悪化
<p>その他セグメントの事業成長の加速 （鶏卵販売・肥料・畜産用機器・ 保険代理業等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 鶏卵、肥料、畜産用機器いずれも売上、 利益ともに前年同期を上回る ◇ 海外渡航が可能となり、畜産用機器の 海外での営業活動を再開
<p>成長する収益基盤を支える サステナビリティ経営の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 温室効果ガス排出量の削減目標を定め 取組みを開始（詳細は22ページで説明） ◇ 取締役会の実効性向上のため、社外役員 向けに業界知識を深める施策を実施

環境に配慮した飼料の販売及び開発の状況

採卵鶏用飼料

- ◇ 鶏糞量の低減に繋がるKDシリーズを販売中

ブロイラー用飼料

- ◇ 床湿りの改善に繋がる配合設計を適用した銘柄を販売中

水産用飼料

- ◇ 水産業界の持続可能性向上に繋がる低・無魚粉飼料を販売中

養豚用飼料

- ◇ 子豚が食べやすい形状の飼料を販売中
- ◇ 排泄物の窒素低減に繋がる飼料の試験中

New

養牛用飼料

- ◇ 温室効果ガス減少に繋がる飼料を試験中

New

環境に配慮した銘柄の提案行動により収益力の向上を目指す

鶏卵販売

- ◇ 特殊卵「ごまたまご」の拡販
- ◇ 特殊卵「平飼いシリーズ」のブランド化推進
- ◇ 外食・業務用向けの特殊卵の販売強化

肥料

- ◇ 有機入り配合肥料の強み（環境負荷が少ない等）を活用した販売強化
- ◇ 関東の生産拠点である神栖工場の製造設備増強による拡販

畜産用機器（子会社：中部エコテック）

- ◇ 畜産用機器の新規・追加設置の獲得、買換需要の掘り起こしを推進
- ◇ 中国、東南アジア等への販売強化
- ◇ 下水汚泥処理用機器の新規拡販

保険代理業（子会社：ダイコク）

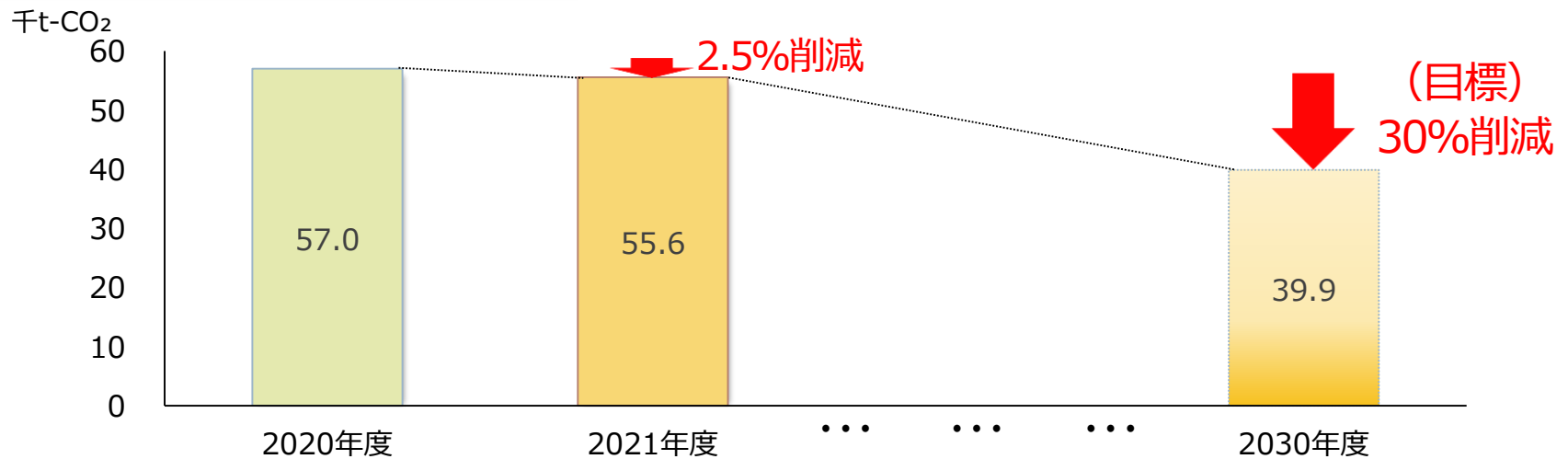
- ◇ 畜産保険の販売を通じて生産者へ貢献
 - 疾病・災害等へのリスクヘッジ機能を訴求した販売強化
 - 飼料事業へのシナジー効果

その他セグメントの通期利益10億円を目指す

温室効果ガス排出削減の取組み

- ◇ 気候変動が重要な経営課題であるという認識のもと、温室効果ガスの削減について、指標と目標を設定
 - 指標：当社グループ（国内）の温室効果ガス排出量（Scope 1、2）
 - 目標：2030年度に2020年度比30%削減
 - 省エネ設備や太陽光発電の導入、燃料転換、再エネ電力の調達等により、削減に取り組む
- ◇ 2022年10月、TCFD提言へ賛同表明

温室効果ガス排出量と削減率状況



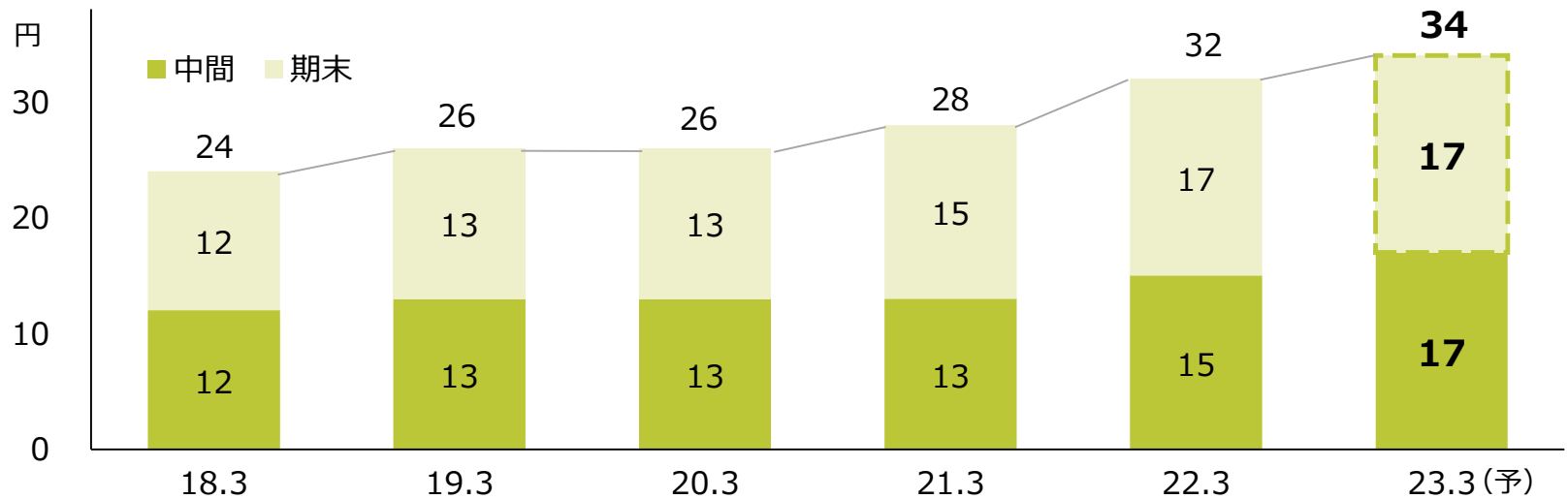
株主還元

還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上させる
- ◇ 将来の事業展開や経営環境の変化に対応するために必要な内部留保、業績及び純資産配当率（DOE）等を勘案し、配当を決定する
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の改善と株主の皆様への還元を図る

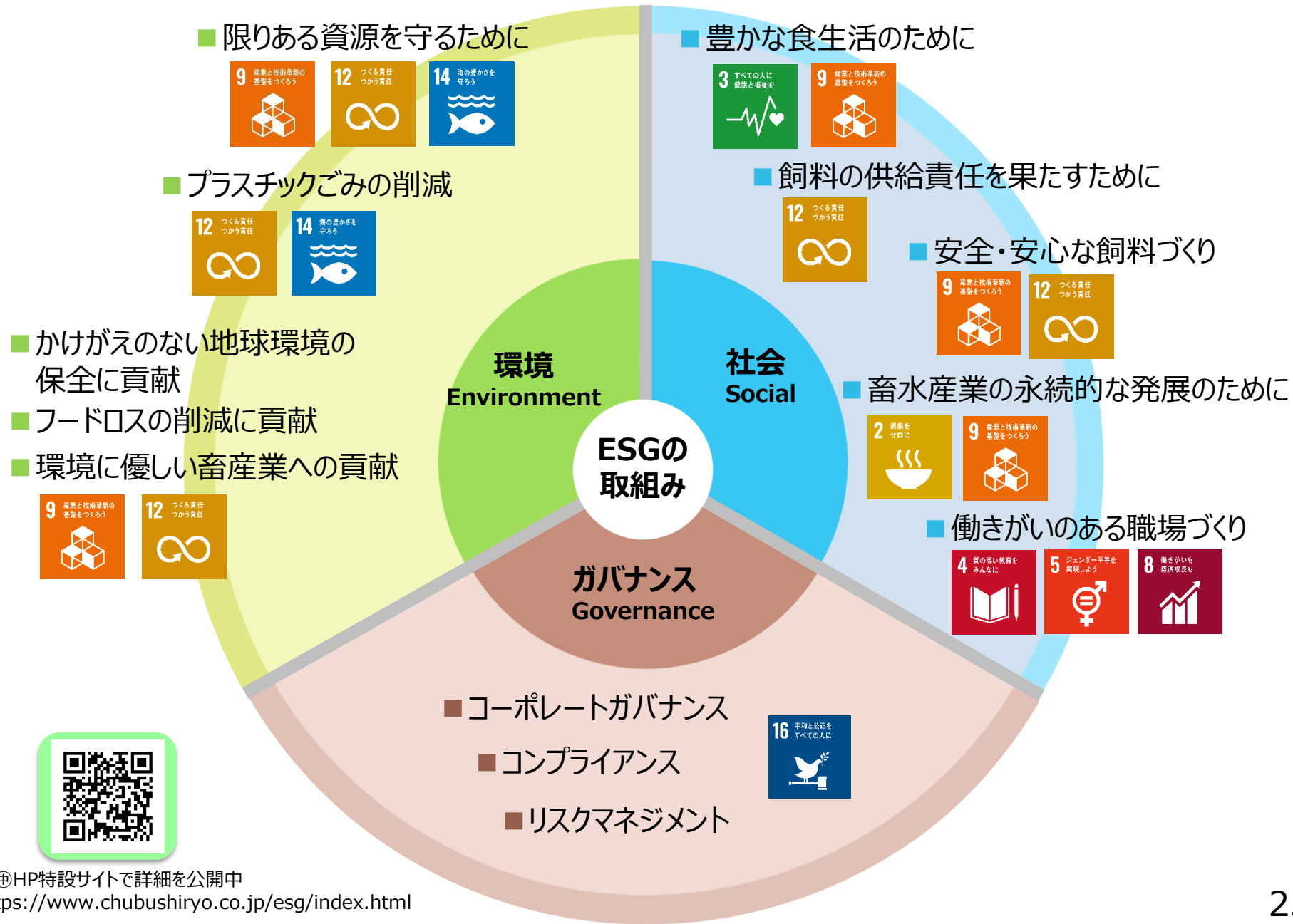
1株当たり配当金の推移

◇ 23.3期の配当金は34円/株を予定



純資産配当率 (%)	1.5	1.5	1.4	1.5	1.6	1.6
配当金総額 (億円)	7.2	7.8	7.8	8.4	9.5	10.0
自己株式取得額 (億円)	-	-	4.6	-	2.8	2.3

参考資料



Q 差別化飼料とは？

A

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

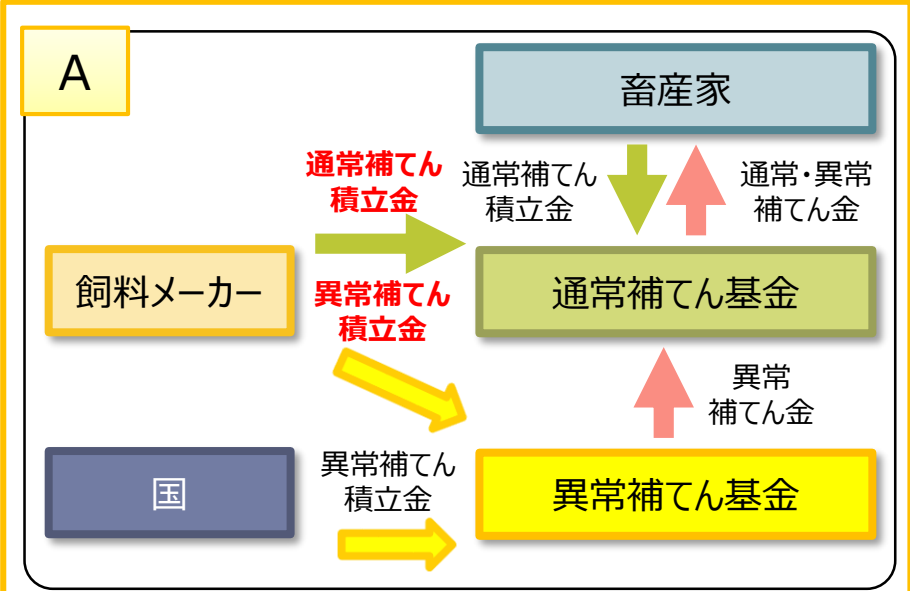
Q 原料ポジションとは？

A

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- ◇ 飼料価格は、四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生

⇒ 原料ポジションが改善・悪化

Q 基金負担金とは？



目的 ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

内容 ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立

- ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
- ◇ 積立金は財源により増減



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。